

## 函館の現場調査のノウハウと 現場調査の様子について

鈴木 亙

建交労函館支部で取り組んでいる現場調査について、紹介します。

### 現場調査を行うまで函館市に協力を要請

建交労函館支部では、函館市土木部に対して、公共現場の現場調査について要請書を出しています。2つの要請事項を掲げており、1つ目は、昼食休憩や一服休憩の際に、休憩所での労働者アンケート調査に協力くださいというもの。2つ目は公共事業現場調査の際に、現場代理人の調査にご協力いただきたいという要請です。

函館支部からの要請に対して、函館市土木部が市発注工事のうち、6～7箇所の現場と連絡先を文書で教えてくれます。

現場代理人と調査日程を決める対話のなかで、アンケートの中身や建交労の活動、現場調査について理解してもらう事が、調査活動を始める時に一番大事な段取りになります。

### 北海道発注工事の 現場調査も実施

函館支部では、市発注の現場だけではなく、北海道発注の現場調査も行っています。北海道庁との交渉を通じて実現し、この4年、連続で調査しています。具体的には、函館市内にある渡島総合振興局入札契約課が窓口になり、閲覧室で私自身が工事を選定し、入札契約課課長から現場代理人に連絡を取ってもらう方法で行っています。

### 日給の平均は9,835円

2018年度は、現場調査アンケートを85名から回収することが出来ました。内訳は、北海道庁発注の3現場で18名、函館市発注の8現場で67名です。表1は、職種未記載の2名と賃金未記載の12名、計14名分を除く、71名分についての結果です。日給回答者は43名（85名の50.6%）、月給回答者は28名（同32.9%）です。

日給回答者の平均賃金は、9,835円です。私は、7年連続で現場調査を行っておりますが、設計労務単価が上がっていく一方で、地元で働く労働者の賃金は、さほど変わっていない現状が続いています。

### 複合単価と設計労務単価はリンクしていない

なぜ賃金が上がらないのかとも疑問に思っ

表1 日給回答者・月給回答者別平均賃金(2018年度) 単位：人、円

職種	日給 人数	日給 平均	比率 (%)	設計 労務 単価	月給 人数	月給 平均
普通作業員	36	9,530	58.4	16,300	3	273,333
電工	1	10,000	59.7	20,100	6	232,500
配管工	0	—	—	—	3	290,000
特殊作業員	0	—	—	—	8	267,500
内装工	1	7,000	31.0	22,500	0	—
防水工	0	—	—	—	1	225,000
左官工	0	—	—	—	1	200,000
設備工	0	—	—	—	5	276,600
重機オペ	1	11,600	69.8	16,600	1	240,000
塗装工	2	12,000	54.0	22,200	0	—
警備員	2	6,880	63.7	10,800	0	—
計	43	9,835			28	250,616

いましたが、今年の現場調査で、その事について現場代理人から興味深い話を聞きました。それは、設計労務単価と複合単価（手間賃+材料代）がリンクしていないので、賃金が上がらないんだということでした。加えて、複合単価は、現場代理人なら誰でも知っているはずで、組合の取り組みもすごく理解出来ると話してくれました。私自身、複合単価という言葉は初めて聞きました、今後には生かす武器を貰いました。

### 若手の定着に不安

現場代理人に、今一番何に苦勞しているか聞いたところ、消費税増税によって、現場移動や重機に使う燃料費が上がっている事と、資材費も若干ではあるが高くなってきており、やりくりするのに頭を悩ませていると話してくれました。

また、どこの現場でも人手不足が深刻化していること、若い労働者も増えてはきているが、一人前になるまでいてくれるかの不安があることなども話してくれました。

### 2019年度も現場調査を実施中

表2は、2019年度の現場調査で得られた元請と1次下請以下の日給を示しています。昨年と比べて、元請で働いている普通作業員の賃金が上がっている事と、1次下請と、2次以下の下請で働く労働者の賃金がほとんど上がっていない事が分かりました（表2）。

今年度は、今のところ函館市6現場64名からアンケートを回収していますし（表3）、今後、北海道発注工事にも3現場入る事が決まっています。

### 労働者の処遇改善に向けて運動を進める

毎年現場調査に入る事ができる

表2 層別普通作業員の日給（2019年度）

職種	元請	1次下請・ 2次下請以下
普通作業員	10,575円	9,600円

背景には、建交労函館支部が建設労働者の労働条件改善と健全な地元中小建設会社の地位向上の立場から、厚生労働省交渉、北海道開発局交渉、北海道庁交渉、市役所交渉を長年続けてきたことにあります。

最近の公共工事では、7年間連続して「公共事業設計労務単価」が上昇し、社会保険加入促進、建退共の改善、有給休暇年5日取得の義務化、週休2日制の議論、日給制から月給制への議論など、労働環境を変えようとしていることが分かります。しかし、現場調査から、普通作業員の賃金は設計労務単価の6割程度です。現場代理人からは、地元で働く労働者、特に警備員の資格を持つ人を確保するのが大変だという実態を聞いています。

設計労務単価と労働者の賃金格差が広がっていますが、実態把握と改善に向けて、今年度も現場調査を頑張ります。

（すずき わたる 全日本建設交運一般労働組合函館支部）

表3 日給回答者・月給回答者別平均賃金  
（2019年度、函館市の6現場）

単位：人、円

職種	日給 人数	日給 平均	比率 (%)	積算単価	月給 人数	月給 平均
普通作業員	10	9,990	59.1	16,900	1	200,000
金物工	0	—	—	—	3	223,333
警備	0	—	—	—	1	188,000
大工	9	13,333	55.7	23,900	0	—
内装工	4	13,750	58.7	23,400	2	291,666
とび	3	8,833	39.0	22,600	0	—
左官工	1	10,000	41.8	23,900	0	—
鉄骨工	1	8,400	35.2	23,800	0	—
計	28	10,717			7	225,749